

# 付 属 資 料

天草市五和地域まちづくり計画策定作業経過

月	日	内容	備考
H26 8	18	【諮問】	天草 10 地域
9	24	第 1 回五和まちづくり審議会	
10	22	第 1 回五和地域まちづくり計画策定作業部会	
11	11	五和まちづくり協議会委員に、計画策定に係るアンケート依頼	
H27 1	5	第 2 回五和地域まちづくり計画策定作業部会	
	14	第 3 回五和地域まちづくり計画策定作業部会	
	21	第 4 回五和地域まちづくり計画策定作業部会	
	28	第 2 回五和まちづくり審議会	
2	13~25	天草市五和地域まちづくり計画素案に対する意見募集	
3	5	第 5 回五和地域まちづくり計画策定作業部会	
	10	第 3 回五和まちづくり審議会	
	23	【答申】	天草 10 地域

天ま支第292-8号

平成26年8月18日

五和まちづくり審議会会長 様

天草市長 中 村 五 木



## 諮 問 書

本市は、平成18年3月27日の市町村合併以降、まちづくりの基本理念に「日本の宝島“天草”の創造」を掲げ、その実現に向けてまちづくりを行ってきたところです。

また、本市には、素晴らしい自然や独自の文化及び歴史、豊かな農林水産資源、さらには日々の生活で育まれた相互扶助の精神など、全国に誇れる地域資源が数多くあります。

しかしながら、今日、本市においては、人口減少の急速な進展や地域経済の疲弊、さらには雇用機会の不足や少子高齢化への対応など多くの課題を抱えております。

このような地域社会を取り巻く環境の変化に伴い、地域住民一人ひとりの主体的な取り組みを基本としつつ、地域住民及び行政協働のもと継続的にまちづくりを実践できるように、様々な課題に計画的に取り組むことが重要になってきます。

以上のことを踏まえ、天草市五和地域の生きいきとした個性あるまちづくりを進めるため、下記のとおり諮問し貴会の意見を求めます。


### 記

- 1 諮問事項 天草市五和地域まちづくり計画について
- 2 諮問理由 五和地域の実情に即したまちづくりに関する計画を策定し、生きいきとした個性あるまちづくりを進めるため

平成27年3月23日

天草市長 中村五木様

五和まちづくり審議会  
会長 岩崎 周

A square red seal impression with the text "五和まちづくり審議会 会長之印" (Seal of the Chairman of the Iwaizumi City Five and Four Community Development Review Committee) written vertically in seal script.

### 答 申 書

平成26年8月18日付け天ま支第292-8号で諮問のありました、天草市五和地域まちづくり計画について、本審議会において慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり答申します。

なお、貴職におかれましては、本審議会の意見を踏まえた計画を策定されるよう、よろしく申し上げます。

## 五和まちづくり審議会 名簿

	審議会役職	氏名	所属団体	まち協役職	選出区分
1	会長	岩崎 周司	手野まちづくり振興会	会長	地区振興会長
2	副会長	鬼海 秀一	御領まちづくり振興会	副会長	地区振興会長
3		富山 善次	鬼池まちづくり振興会		地区振興会長
4		井上 英二	二江まちづくり振興会		地区振興会長
5		野口 米仁	城河原地域づくり振興会		地区振興会長
6		吉田 健吾	天草漁業協同組合	監事	漁協理事
7		金子 光男	本渡五和農業協同組合		農協常務理事
8		山下 信昭	天草市商工会		事務局次長
9		堤田 光秋	五和地区行政区長会		区長会長
10		向 信弘	五和民生委員児童委員協議会		協議会会長
11		岡田 伸子	御領まちづくり振興会		女性代表
12		宮崎 三加子	鬼池まちづくり振興会		女性代表
13		橋本 むつみ	二江まちづくり振興会	監事	女性代表
14		猪口 ユミ子	手野まちづくり振興会		女性代表
15		松下 みどり	城河原地域づくり振興会		女性代表

# 第2期御領地区振興計画

計画期間

平成25年度～平成27年度

まちづくり協議会名

五和まちづくり協議会

御領まちづくり振興会

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)	
面積	11.8km <sup>2</sup>
人口	2,952人
就業人口	192人
(H22)	225人
第3次産業	714人
区数	8区
学校	
文化財	《市指定文化財》 べーが墓(キリシタン墓碑群) 岩島のキリシタン墓碑群 御領神社 二の鳥居 芳徳寺 衆寮堂、豪商石本家屋敷 一尾貝塚(縄文時代中期～晩期中頃) この貝塚から出土する釣針は、朝鮮半島との関連性がうかがえる。 14世紀頃の五輪塔(通称:松嶋どん) 在禰。鎌倉時代のもと思われ、地元豪族の墓として建てたものらしい。
史跡	浦園の穴籠音、串の城石仏群と大師像、岩谷観音、芳徳寺、馬場の石橋、黒崎の石橋、黒崎海水浴場、若宮海水分塔、亀島、シーヤック体験、島の城公園、御領前町商店街、松嶋台地、御領石の石垣(町並み)
地域伝統芸能	御領神社秋の例大祭、大鳥神社秋の例大祭、小里御蔵神社秋の例大祭(行列、獅子舞、神輿など)
地域づくり団体	御領まちづくり振興会

## 地区のいどころ、自慢できること

御領地区は、御領石の恩恵を受けてきた。例えば、良質の野菜を年中栽培できる松嶋台地の地盤は御領石であり、この御領石が雨天のときには雨水を貯え、日照りの時は水分を蒸発させ、土壌に湿りをもち、土壌を潤わす作用を行っている。また、通過の作用もあり、排出される水はきれいで、流れ込む近海では多くの魚を捕ることができ、近年では、住民総参加を合言葉に平成18年から御領前町商店街から近隣の地域資源「灯ろうや石灯ろうで飾り、火を灯し地域を幻想的な光に包みこむ」御領石竹秋まつりなどのイベントも実施している。

【御領石とは...】  
約9万年前の阿蘇大噴火による火砕流が有明海を降り流れ固まったもの。(阿蘇海結核灰岩)

## 【地区の現状・課題】

項目	地区の現状		
	H17	H22	H27/H17
15歳未満人口	321	279	242
15～64歳人口	1508	1346	1,201
65歳以上人口	1332	1326	1,320
75歳以上人口	854	898	944
人口計	3161	2952	2,763
高齢化率(65歳以上)	42%	45%	48%
15歳未満率	10%	9%	9%
世帯数	1001	968	936
高齢者のみ世帯数	-	313	-

## ◇地域が抱える課題・困っていること◇

- 少子高齢化に歯止めがかからず、地区の人口は減少するばかりであり、地区の行事自体の存続が危ぶまれている状態である。
- また、それに伴い、専業への参加者が固定化されつつあるため、一部の住民での取り組みになってしまっている。
- 自分たちの地域は自分たちで創りあげていくという共通認識をもっていないため、ための取り組みを行う必要があり、まちづくりに対する意識の向上をいかにして図るかが課題である。
- 振興会の行事には経費も多く必要であり、財源の確保に苦慮している。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	・年々人口が減り、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・高齢化が進み、イベント準備などに支障をきたしてきている。 ・高齢者のうち、独り暮らしの方が増えており、孤立してきている。
III	生涯学習	・年々人口が減り、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・高齢化が進み、イベント準備などに支障をきたしてきている。
IV	健康福祉	・年々人口が減り、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・高齢者のうち、独り暮らしの方が増えており、孤立してきている。
V	青少年育成	・年々人口が減り、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・田舎でかきできない体験等を活用した活動が必要である。
VI	環境整備	・年々人口が減り、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・耕作放棄地などが年々増え景観を損ねている。

## ◇◆◇まちづくりの目標◆◆◆

テーマ	内容
感謝の心で地域おこし(御領石おこし)	一人一人では生きていけず、助け合い、協力が必要である。御領地区では、住民総参加を合言葉に「感謝の心」を基本理念として地域づくりを進めていく。また、御領の地下に層をなし、水分調整及び濾過作用により松嶋台地や近海では良質の野菜や魚を採ることができ、また、物資の流通が促進してきたことは、御領石の恩恵を受けており、自然や物への「感謝の心」をもった振興も図っていく必要がある。

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	地域を取り巻く環境は益々悪化しており、高齢化、後継者不足、犯罪率の増加に拍車がかかっている。そのため、地域を活性化させる手段により、コミュニティの活発化を図り、環境の改善に取り組みます。 ○ 集落営農の推進 ○ 地域産品の商品化の推進 ○ 特産品まつりの開催 ○ 交流人口増加を図る受入態勢の充実及び体制の整備 ○ 文化材の保護・継承への取り組み
III	生涯学習	地域に住む高齢者が安心して生活できる見守り体制づくりと生活環境の整備に取り組みます。 また、いつまでも元気でいられるよう、誰でも参加できる軽スポーツや地域で活動させているスポーツの大会を通して、地域住民の健康づくりに取り組みます。 ○ 御領史跡探訪 ○ 文化祭の開催 ○ 運動会や各種スポーツ大会の取り組み
IV	健康福祉	地域の将来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境整備や、高齢者が安心して暮らせる地域を目指した取り組みを行います。 ○ 敬老会の開催 ○ 見守り隊の育成 ○ 子どもたちのためのイベント開催 ○ 自主防災組織の育成
V	青少年育成	これまで守り継がれた地域の自然豊かな環境を体感し、次代を担う子どもたちが心豊かに成長する取り組みを行います。 また、地域の方が安心して生活できる環境を整えます。 ○ 環境美化活動の取り組み ○ 自然を体感するイベントの開催
VI	環境整備	これまで守り継がれた地域の自然豊かな環境を今後も維持する取り組みを実施します。 ○ 景観形成 ○ 川の水質浄化に関する取り組み

# 第2期鬼池地区振興計画

計画期間

平成25年度～平成27年度

まちづくり協議会名

五和まちづくり協議会

地区振興会名

鬼池まちづくり振興会

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)	
面積	6.5km <sup>2</sup>
人口	1,071人
就業人口(H22)	75人
第1次産業	81人
第2次産業	273人
第3次産業	5区
学校	御福鬼池小学校(H26.3廃校)
文化財	一石一宇塔 半田の六面塔 神の畑の六地藏と古塔群 金野羅置の武者絵と天井絵

史跡	鬼池城跡 鬼池の堀田跡 鬼池小学校跡
その他地域資源	天神山 引坂松原海岸 鬼池港 八丁ヶ所 園の神社 梅蔵様 八幡様 アキサ様 意比壽様 水無の地蔵様 干しダコ タコめし トコロテン クロメ 鬼池ひけ
地域伝統芸能	鬼池曹原神社行列 モグラ打ち
地域づくり団体	鬼池まちづくり振興会 さしよりやっぴやう会

## 地区のいいところ・自慢できること

【ひとがら】  
人情豊かで温かく明るく優しい性格で、素朴さがあがり人々の仲も良い地域。  
【自然環境】  
美しい海山等の自然に囲まれ、緑が豊富で空気がきれいで気候も温暖。  
また、騒音もなく静かで平和な雰囲気であり、住環境は良い。  
【生活環境】  
天章の北五箇に位置し、フェリー・バスの便も比較的良い。本渡地域にも近いので買物等も便利。また、子どもの行事に地域全体で取り組み都市化していないところが良い。  
【地域資源】  
天神山があり、引坂松原海岸には、清構等自然環境保全活動の成果により、アガツミカメが産卵に来るようになった。鬼池港の整備活用も今後期待される。

## 【地区の現状・課題】

項目	地区の現状	
	H17	H22
15歳未満人口	103	64
15～64歳人口	609	486
65歳以上人口	477	417
75歳以上人口	247	247
人口計	1189	1071
高齢化率(65歳以上)	40%	42%
15歳未満率	9%	8%
世帯数	475	436
高齢者のみ世帯数	-	156

◇地域が抱える課題・困っていること◇

- ・地域住民が温和すぎて、活気と積極性に欠ける。
- ・少子高齢化率が高く、若い人が少ない。
- ・高齢者人口が多いため、高齢福祉の充実と健康増進を図る必要がある。
- ・空き家はあるが、買手がいない・町営住宅がない。アパートがない。
- ・田畑等農地の耕作放棄地が目立ってきている。
- ・農業・漁業の担い手、後継者が少ない。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	・イベント内容のマンネリ化や参加者の減少傾向 ・体験ツアーにおいては、充実した体験メニューの整備 ・防災訓練の継続した取り組み ・年3回発行の広報紙の充実
III	生涯学習	・人口減少と高齢化の進行により、参加者が減少している ・各教室の構成員数に変化が無い ・次世代の人材育成
IV	健康福祉	・参加メンバーが固定化している。積極的なPRを行い新たな参加者の掘り起こしを図る。
V	青少年育成	・人口減少と高齢化の進行により参加者が減少している。 ・地元の小学校が閉校になり、児童を対象とした事業の見直しが必要。
VI	環境整備	・人口減少と高齢化の進行により参加者が減少している。

## ◇◆◇まちづくりの目標◆◆◆

テーマ	環境と人にやさしいまちづくり
考え方	・環境が美しく、鬼池で生活する人、鬼池を訪れる人によさしくあつてこそそのまちづくりであるとの理念の下、清瀬等海の環境保全活動により美しい鬼池の環境を守り維持しながら、地域の人々が住んでよかつたと思え、訪れる人が来てよかつた、また来たいと思えるまちづくりに取り組む。

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	・鬼池のシンボル天神山を活かし、多くの人々が訪れる魅力ある地域づくりに取り組む。 ・鬼池の海、海岸、天神山等の自然や海の幸を活かした取り組みや地域特産品の開発流通を図ること、地場産業の活性化と人的物的交流を促進する。 ・自主防災会組織の機能を充実させることで、地区民の安全確保と防災意識の高揚を図る。 ・これら振興会の活動状況、まちづくり情報を地区長に周知し、参加を促す。
III	生涯学習	・鬼池の人々の健康増進・教養文化振興を促し、生涯学習意欲の高揚と産業文化の振興を図る。 ・婦人部の研鑽と活性化を図る。
IV	健康福祉	・子どもから高齢者に至るまで、幅広い世代にわたる健康増進に努めていく。 ・食を通して健康への関心を高め、参加者の親睦と融和を深める。 ・鬼池の高齢化率が40%を超えていることから、高齢福祉の充実など少子高齢化対策に取り組む。
V	青少年育成	・幼小中高校生の子どもは鬼池の宝である。健全な成長と地域の一員という自覚醸成のため鬼池地区を挙げて育成に取り組む。 ・伝承行事の伝承 ・世代間交流の促進
VI	環境整備	・まちづくりにとって、環境保全と整備は大切なものであり、世代に継承してゆかなければならない。 ・美しい鬼池を保全するために、国道周辺の美化や地域の環境衛生の保全・水質浄化を図る。 ・市道周辺の美化、湖等環境保全維持、河川環境保全維持と災害防止を図り、鬼池地区民の美化意識高揚と連携を促す。

# 第2期二江地区振興計画

計画期間

平成25年度～平成27年度

まちづくり協議会名

五和まちづくり協議会

二江まちづくり振興会

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)	
面積	5.9km <sup>2</sup>
人口	2,846人
就業人口	247人
(H22)	236人
第2次産業	680人
第3次産業	10区
区数	二江小学校(平成26年3月閉校)
学校	
文化財	六角井戸(長崎県平戸市や福江市などにも残されており、中国との貿易が盛んだった時代、通訳(通詞)をやる人が住んでいる島から通詞島と呼ばれるようになったとも言われている。)

史跡  
沖ノ原貝塚遺跡(天草式製塩土器)、侍どんの墓(キリタン墓群)、真古墳、西古墳、島の祝字塔(おすみ塚)、寛政津波の供養塔、南無妙法蓮華經の墓、烽火燭跡

その他地域資源  
根付きのイルカ、通詞島、素海り漁、意比舞舞、せどや、製塩所。

地域伝統芸能  
二江神社秋の御大祭(行列、獅子舞、神輿など)

地域づくり団体  
二江まちづくり振興会

## 地区のいどころ、自慢できること

二江地区は、古くから漁業で栄えた町である。中でも素海り漁は速く中国や朝鮮半島まで出漁していた。その中で鍛えた潜水技術は高く、サルベージ業の先駆者でもあった。今でも20~40代中心の男性業界者漁師が60人程いて、ウチやアワブ、海産物を採っている。二江の沖は早崎の瀬戸と呼ばれている。有明海と玄界灘が交わり合う豊かな水産資源に恵まれており、イルカと漁師が強き意思を分け合っている貴重な海域である。イルカは、二江沖を中心に回遊しており91年を通して観察することが出来る。またおこしから始まったイルカウォッチングは、年間10万人を超える観光産業に育った。

町並みも、漁村特有の住宅が密集した「せどや」と呼ばれる集落が残っている。集落ごとに、漁の神様である軍比須様が祀られてお祭りも厚い。二江沖に浮かぶ周囲(キロ)の通詞島には、豊かな自然をはじめ、中国式の六角井戸などの歴史遺産、古い伝説も多く残り、「通詞島」ブランドが確立されている。また、今年には、「にほんの里100選」や「島の宝100景」に選定されている。また、地域にとって自慢の1つとなっている。

## 【地区の現状・課題】

項目	地区の現状	
	H17	H22
15歳未満人口	442	340
15~64歳人口	1,669	1,501
65歳以上人口	996	1,005
75歳以上人口	555	604
人口計	3,107	2,846
高齢化率(65歳以上)	32%	35%
15歳未満率	14%	12%
世帯数	1,062	1,007
高齢者のみ世帯数	—	298

## ◇地域が抱える課題、困っていること◇

高齢化率が35%、65歳以上のみの世帯が全世帯の30%に迫っており、福祉・防災・防犯など様々な面で、地域コミュニティの重要性が高まっている。経済面では、主要産業の漁業が魚価の低迷や原油高などにより活力を失いつつあり、早急な対策が望まれている。少子についてはあるが、まちづくりに対する関心は高まっているものの、その趣旨が地区全体に浸透しているとは言い難い。また、振興会メンバーが固定化・高齢化の傾向にある中、活動に広がりを持たせるためにも、親世代の若者を始め、職業種、運動した人など、幅広い世代・分野からの人材を、まちづくり活動に巻き込む必要がある。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	・自治公民館単位での自主的な活動体制が確立されている。 ・人口減少、少子高齢化が進行してきており、地域の活気も失われつつある。 ・地域づくり活動への参加者が固定化、高齢化してきている。
II	産業振興	・主要産業である漁業が、漁獲量の減少、魚価低迷、燃料費高騰により後継者が減ってきており活気を失いつつある。 ・海産物の消費が減少する「健康化」の拡大が深刻化してきている。 ・早崎海峡で育まれた良質な多種多様な魚介類のブランド力が弱い。
III	生涯学習	・自治公民館等で活動されている自主サークルや各種講習会などが地域住民に知られていない可能性がある。
IV	健康福祉	・ウォーキングやグラウンドゴルフなどで体力増進、健康保持に努めている人がいる反面、全く運動をしない人も多い。 ・これからは少子高齢化が進んでいくため、高齢者を対象にした健康づくりも含めたサロンのや、高齢者と子ども達が触れ合えるようなイベントを企画していく必要がある。
V	青少年育成	・平成26年3月の二江小学校閉校により、地域住民と子ども達も接する機会の大幅な減少が予測されるため、地域住民と子ども達との関わりをより深めていくための方策を考えていく必要がある。
VI	環境整備	・根付きのイルカが生息するなど、国内唯一と言ってもいいほど豊かな自然環境に恵まれている。 ・市内外から毎年多くの観光客が訪れることから、観光地としての景観保全と安心安全な生活環境を保持していくことが課題である。

## ◇◆◇まちづくりの目標◆◆◆

テーマ	きてみんな！心も大漁ふたえんもん
考え方	二江地区は、イルカウォッチング発祥の地として多くの観光客が訪れる反面、業通り客が多く地域が賑わうまでに至っていない。イルカを核としながらも地域資源を活かしたツーリズム事業やイベントなどを通して交流人口の増加を図り、地域活性化を目指す。「まてみんなん」は、どうぞお出でくださいという地元の言葉。一方、生活の基盤である地域コミュニティでは、高齢化や生活様式の多様化などで弱体化の方向に進みつつあるが、根付きの深い11の自治公民館組織を中心とした活動を継続、発展させることで、地域連携強化、郷土愛の育成、助け合いの深い11の自治公民館組織を中心とした活動を継続、発展させる(心も大漁)まちづくりを目標とする。

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	11の自治公民館と振興会とが連携した活動を継続、発展させていくことで、地域連携強化、郷土愛の育成、助け合いの精神を養い、持続可能な地域コミュニティを目指す。 また、地域づくり活動を継続、発展させていくため、参加者の拡充や若い世代の人材を掘り起こすを図る。
II	産業振興	豊かな水産資源を活かしたツーリズム事業の継続や創設により、地場産業の振興と交流人口の増加を図る。また、二江産魚介類のブランド化を確立させるとともに、観光業との連携などで新たな雇用場を創出することで、定住及び移住人口の増加を目指す。
III	生涯学習	五和町公民館との連携を図りながら、生涯学習活動や文化活動に親しんでいくような取組を行うことで、教養や文化に対する意識の高揚を図る。また、こうした活動を披露する場や新たに触れる機会として、敬老会での演奏や美術展などの開催を継続していく。
IV	健康福祉	ウォーキングなどの軽スポーツだけでなく、子どもまでもを対象にした球技大会や体育祭の種目、早稲など、スポーツ系イベントを充実させていくことで、地域住民の健康に対する意識の高揚を図る。 また、高齢者世帯が増加していることから、高齢者が集うサロンやボランティア見守り活動などの実施により、高齢者が安心して生活ができる生活環境を整える。
V	青少年育成	子ども達が心身ともに健康でたくましく成長していくことは地域全体の願いである。地域住民が子どもたちに関わる機会を充実させ、青少年の健全育成を図っていく。また、子ども達に地元行事への参加を促すことで地域のことを理解し、成長しても地域への思いを忘れない心を育てていきたい。
VI	環境整備	根付きのイルカをはじめ多様な生態系を育む二江沖。しかし、温暖化などの環境変化を始め、生活排水の流れ込み、不法投棄などで、その環境は失われつつある。植栽や清掃活動などの景観保全を通して、地域でも一人ひとりが環境問題を意識し、自らからできることを行動に移す地域としたい。 また、防犯パトロール、自主防災組織の活動充実を図り、安心安全なまちづくりを目指す。



# 第2期手野地区振興計画

計画期間

平成25年度～平成27年度

まちづくり協議会名

五和まちづくり協議会

地区振興会名

手野まちづくり振興会

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)	
面積	13.0km <sup>2</sup>
人口	1,180人
就業人口	195人
(H22)	96人
第1次産業	303人
第2次産業	
第3次産業	
区数	4
学校	手野小学校(H26.9開校)
文化財	<p>大妻四郎の産所(手野と津北を結ぶ旧街道にある。一揆軍として、この地を巡りかかった大妻四郎が、産所けて休んだとされる(大妻なまろ) )</p> <p>北条重幸(明徳天皇9年9月12日、旧)建部二宮(手野)の産所(建部重幸は、大妻四郎の孫と伝説されている)</p> <p>のり蔵(110人の侍将校が産所出身であった)</p>

史跡	下内野城址(城の年代は戦国末期の16世紀後半で、志岐氏の陣城であったとされる。)
その他地域資源	やさい村(農産物の販売所)、芦生の社(農産加工も行つたレストラン)、おおくす、デコポン、はんかん、いちご、芦生柿(干し柿)、内野川でのつじ、大殺し柿街道、芦生の畑、てのつのもへじ民泊村
地域伝統芸能	井手神社秋祭り
地域づくり団体	手野まちづくり振興会、柿の会、もへじ會、夏まつり実行委員会

## 地区のいどころ、自慢できること

手野地区は、南北に流れる内野川やその支流に沿った平野と、標高の低い山間部、集落や農地が存在している。主な産業は農業で、河川沿いの農地ではイチゴやトマト、葉タバコなどの施設作物が、山間部ではデコポン、ぼんかんなど柑橘類の栽培が盛んに行われている。このように、この豊かな農村環境の中で、近年、地元農家から「グリーンズーム」の取り組みが芽生えており、農家民泊等を通して、都市住民と農村の交流が図られてきた。

また、地域の女性グループを中心に、とれたて野菜や惣菜を安く販売する『やさい村』や無農薬野菜を基本に田舎料理を提供する『芦生の社』といった、地域に根ざした自営のお店もあり、地域の人のみならず他の地域からも多くの来客さんが来店している状況にある。

ほかにも、まちづくりの新たな動きの中で、地元住民により動き出した『柿の畑づくり』でのコミュニティデコポンや農産物づくりへの活動、地元若者による『手野夏まつり』の開催など、人と人とのつながりが濃い地域でもあり、それが人々の自慢の1つとなっている。

## 【地区の現状・課題】

項目	H17	H22	H27	H22/H17
15歳未満人口	172	138	111	80%
15～64歳人口	712	652	597	92%
65歳以上人口	402	390	378	97%
75歳以上人口	208	244	286	117%
人口計	1286	1180	1086	92%
高齢化率(65歳以上)	31%	33%	35%	106%
15歳未満率	13%	12%	10%	87%
世帯数	475	379	302	80%
高齢者のみ世帯数	-	-	-	-

## ◇地域が抱える課題・困っていること◇

まちづくりにおいては、地域住民の自発性と創業者を促したまちづくりができないかを考え、公募性の助成制度を創設し、その制度を利用して『芦生園』による手野地区に誕生する『苺畑』に光をあてた、柿の畑づくり事業の取り組みをH20から始めるなど、新たな動きも出てきていますが、部会次第では、活動が停滞もしくは休止してしまうところもあり、事業内容・部会組織の存続を含めて随時見直しを行っています。今後は、まちづくりに賛同しやすい事業者や団体化を進め、幅広い世代からの人材確保をする必要があると思われまます。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	これまでも本地区の地域づくりでは、地域住民や若者グループ、女性の会等から発信されたスタートした活動や取り組みが行われてきたが、取り組みに参加する者が固定化しているのも現状である。そこから、これからは出来るだけ多くの人が参加・費用しやすい体制を創っていく必要がある。
II	産業振興	手野地区の基幹産業である農業では、平坦地には米・タ・タバコ、野菜ハウス等が、丘陵地にはデコポン、晩柑を主流とするみかん栽培が盛んであり、質の高い素晴らしい農産物が存在する。しかし、これらの価値を適切に収益に繋げたいための販売流通面分野の開拓が個人個人で対応しているため、高い収益につなげておらず、市場開拓を念頭に販売流通分野が課題となっている。
III	生涯学習	自主サークルや講習会への参加者への参加者が固定化している。今後は、積極的にPRなどを行い新たな参加者の掘り起こしを図る必要がある。
IV	健康福祉	高齢化が進み中、特に高齢者を対象とした健康づくりが課題である。そのような中、本地区では昨年一つの老人会が解散し、高齢者の集う場所が減少している。今後は高齢者の集う機会を確保することと高齢者が心待ちにするようなイベントなどを企画していくことが課題である。
V	青少年育成	平成26年4月には、地域内の小学校と中学校が閉校し、校舎が他地区へ移転する。これまでに学校とともに企画してきた地域づくりのイベント等を、今後どのように継続していくかが課題である。
VI	環境整備	地域では、地域の中心を流れる内野川が河川改修により、コンクリートブロック積みのお堀風な内野川となったことなどから自然豊かで美しい農村環境を取り戻そうとツツジを長年植えて育て、地域住民によって維持管理が行われ、今では約4kmにも及び咲き誇るツツジの街並みが完成した。しかし、住民の高齢化によりボランティアによる除草や剪定等の維持管理作業が困難となっており、今後の課題である。

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	これからのまちづくりは、公助から互助・共助へと変化してきています。これまでは、まちづくりの活動そのものが主体であるが、既存の組織と協力体制を中心に決めてきたが、これからはまちづくり協議会＝住民と、既存の組織と協力体制を中心に決めてきたが、効果的な事業運営ができる柔軟な組織に再編し、真の自立に向けた組織づくり、まちづくりを行っていきます。
II	産業振興	手野地区で平成20年度から取り組むコミュニティデコポン「芦生柿の日本一づくり」では、地域外へ「芦生」のブランドをアピールしその知名度を上げることができた。併せて『芦生』ブランドを築き上げており、今後はコミュニティデコポン組織を中心として、地域(天童)のいろいろな農産物を「芦生 産品」として切り扱い、農産物の産出先商を回ります。また将来は、この物流の道を「緑の道」として人物・情報が行き交う交易の道としていきたい。
III	生涯学習	生涯学習は、現在 多種多様な学習活動が自主的に展開されており、その活動成果は産業文化祭などで発表されています。また、中・高校生を対象とした「ふるさと教室」伝承会”や”女性料理教室”、小学生を対象とした”地域の人、自然とふれあえる秋”を、楽しみながら取り組んでいき、豊かな人づくりにつなげていきます。今後は、五和地区公民館と連携を図りながら時代の変化により対応できるような、総合的にコミュニティカレッジの機会を増やしていきたいと考えます。
IV	健康福祉	手野地区では、高齢化により高齢者の健康づくりが重要な課題であります。現在、自主的にサークル、クラブ、グループなど高齢者スポーツを通して自主的に健康づくりに努めています。また、地域内には高齢者グループが4団体あり、それぞれ月に1回程度集い、食事や悪い事などを通じて交流を深めています。これまでに福祉活動は、まちづくり協議会と社会福祉協議会と連携して交流を深めていき、「一人暮らしの集い」”生き活きプロジェクト”を実施し、高齢者の交流の場を確保してきましたが、これからはこれらの集いを良いものとして、高齢者が心待ちにするような事業展開をしていき、自主的に活動してきている、106歳以上の高齢者グループの交流の場が受け入れられないようにすることで、福祉の風土づくりをしていきます。
V	青少年育成	これまで青少年の育成に関しては、交流事業を含め多くを小中学校と連携をして行ってきました。今後は小中学校が閉校により地域から消えてしまつた環境の中で、その受け皿を子ども会等に移行して、取り組みを継続していくこととなる。また、防犯等ではこれまでと同様に地域内のボランティアグループや青少年育成部会を中心に、子ども達の非行防止や犯罪に巻き込まれない地域づくりへの取り組みを行っていきます。
VI	環境整備	これまでの風のツツジ街道とは新たに、振興会では大きくて空の美しい木製、相”を植樹した相街道をつくり、秋の風物詩となるように取り組んでいきます。今後はこのように地域の魅力を自らもつて、グループを育成するなどし、相街道を管理する新たな組織を構築していく必要がある。また、地域環境の整備としては、生活用水による河川汚染とゴミの不燃投棄が顕著です。一日一歩運動等により地域内清掃はされているものの、山間部にはゴミの不燃投棄が目立っています。河川の汚染は合併浄化処理の普及とEM処理による浄化活動により、水質は改善されつつあります。今後はゴミと水質と環境が交流事業等を実施して環境整備を密着していきながら環境整備等を実施するとともに、川と身近にふれあえる環境を整備していきまます。

# 第2期城河原地区振興計画

計画期間

平成25年度～平成27年度

まちづくり協議会名

五和まちづくり協議会

地区振興会名

城河原地域づくり振興会

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)	
面積	13.1km <sup>2</sup>
人口	1,088人
就業人口(H22)	102人
第1次産業	105人
第2次産業	300人
第3次産業	4区
学校	城河原小学校、五和小学校(H26.4.1から)
文化財	上野原神社の大楠(高さ約20m、幹回り7m、天草距離の穴楠。樹齢約500年といわれ、遠い昔から神木としてあげられていた。)

史跡  
・高宮、九州最古の石段  
・城木場城址：城域は約950m x 170m、丘陵地で、志岐氏の山城として築かれた。  
・三川城址：中世の城址で、3つの川の合流点にあったことから三川の名がついた。

その他地域資源  
・ホテル・天草空港・五和ダム・東部ダム、鬼の墓蔵石・鬼のせつらん

地域伝統芸能  
城木場神社秋祭り

地域づくり団体  
城河原地域づくり振興会

## 地区のいどころ、自費で暮らすこと

城河原地域は、天草の空の玄関天草空港と五和町の水源五和ダム、東部ダムの2つのダムを有し、緑の山々と田園の風景が広がるが、初夏にはホテルが乱舞するなど、豊かな自然が感じられる地区です。しかしながら、少子・高齢・過疎化が進行し、将来的な集落の維持管理に懸念される状況です。

このような中で、他地区に先駆けて、住民自治組織(城河原地域づくり振興会)を立上げ、地域の課題解決に向け取り組んでいます。平成20年度には、住民参加により、地域将来ビジョンを策定し、「ホテルの里できらめく城河原」をテーマに様々な活動を展開しています。

活動としては、「住民総参加」を基本方針とし、地区の各種団体等地域の人たちが様々な形で参加し、天草空港を活用した遠郊の小規模集落にホテルを運ぶホテル便(入院中の子供たちを元気づけ、温かい交流を続けています)や青空市、ホテルフェスタ等のイベントから特産品開発、耕作放棄地対策、防犯ボランテアィア・ハットロール・自主防災等、多岐にわたり取り組みを行なっています。

## 【地区の現状・課題】

項目	地区の現状	
	H17	H22
15歳未満人口	140	110
15～64歳人口	647	577
65歳以上人口	402	400
75歳以上人口	201	224
人口計	1189	1,088
高齢化率(65歳以上)	34%	37%
15歳未満率	12%	10%
世帯数	388	371
高齢者のみ世帯数	98	98

## ◇地域が抱える課題・困っていること◇

地域の全般的な課題としては、少子・高齢・過疎化、農業後継者不足、それに伴う耕作放棄地の増加、産業振興の低迷等が挙げられる。また、地域づくり活動は多岐にわたっているが、活動の停滞や事業のマンネリ化、活動する住民の固定化などが挙げられる。

これらの課題を解消し、まちを元気にするために、①地域経済を活性化させるための、推進部会の充実及び実行組織の編成と事業の展開、②事業及び組織の刷新(継続的な見直し)、③みらいの見える予算配分と自主防衛の確保、④住民総参加の基本方針の中で、地域づくり活動を実践していく住民を喚起する施策の検討及び実施をポイントとして、様々な活動を通して総合的に実施していかなければならぬ。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	城河原地域には、山、緑、畑、ダム、ホテルが飛び交う川など、豊かな自然が感じられます。また、天草の空の玄関口「天草空港」を有しています。 これらの資源を活かし、他地域(都市)との交流の促進、地域経済が潤うようなシステムづくりが必要とされています。
II	産業振興	農業は城河原地域の基幹産業ですが、後継者も少なく、後継者も高齢化し、衰退している状況です。このため、地域で農業を支え、農業の維持と収入確保ができる支援システムを構築する必要があります。 ・地域には採れたて新鮮な山の産物をはじめ、多様な産品・加工品・郷土料理があります。これらの産品・加工品・郷土料理等を未来へ継承するとともに、将来、地域の収入確保につながるような取り組みが必要とされています。
III	生涯学習	生涯学習活動や文化活動・スポーツに親しんでいけるような取り組みを図っています。
IV	健康福祉	城河原地域の高齢化率は40%を越え、今後も一段と進んでいくものと予想されます。このため、地区住民の健康増進と健康意識の向上を図る必要が感じられます。 ・地域の社会福祉の増進を図るよう、住民みんなが協力し合い、明るく楽しく生きがいのある地域を作る必要が感じられます。
V	青少年育成	地域づくりの基本は、「人づくり」です。城河原の未来を創る子どもたちを地域で支える活動や安心して子育てができるように子育て環境の整備・充実を図る必要が感じられます。
VI	環境整備	・城河原地域は、ホテルを育む自然豊かな環境を有しています。しかし私たちが知らないうちに昔の自然環境が失われつつある状況も感じられます。このため、いっしょに自然環境を守り、この環境がいっしょに継承できるような環境整備をすすめていく必要があります。 ・人口が急激に減少しており、定住人口の促進を図る必要とされています。子供から高齢者まで安心・安全なまちづくり
VII	その他	

テーマ	内容
◆◆◆まちづくりの目標◆◆◆	
ホテルの里できらめく城河原	
考え方	城河原には、ホテルの飛び交う豊かな自然とそこに自然を育む心豊かな人たちがいます。これらの豊富な資源を活かして、いっしょに自然を創るために、将来像を上記のように定め、一人ひとりが自分自身でできることから自分自身で取り組むことと、みんな、お互いが協力しながら「安心して暮らせる、ここに住んでみたい」と思える、そしてどこよりも輝いている「城河原の美点をめざします。

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	・交流：心豊かな里づくり「城河原」 豊かな自然や天草空港などの資源を活かし、地域経済が潤うようなシステムを創ります。また、交流を通じて心豊かな里となるように、交流の場の確保と環境整備に取り組めます。 ○ ホテルの里づくりやグリーンツーリズム(ホテルの住む環境整備、ホテルフェスタなど) ○ 他地域との交流(ホテル便など) 等
II	産業振興	・農業：うまももん、つくってみようかい「城河原」 地域を支えるふるさとづくり、耕作放棄地対策を推進していきます。 ○ 集落農産物等の推進 ○ 耕作放棄地の調査、対策 等 ・特産品、郷土料理：未来へつなごう「城河原の味」 ・地域産品・加工品、郷土料理等を未来へ継承するとともに、将来、地域の収入確保につなげます。 ○ 地域産品の調査 ○ 特産品開発、田舎体験メニューの開発 等
III	生涯学習	市の公民館事業との連携を図りながら、生涯学習活動や文化活動・スポーツに親しんでいけるような取り組みを行ない、教養の向上や生活文化の振興を図っていきます。 ○ 文化祭 ○ 球技大会 ○ 体育大会 ○ 教養学級 等
IV	健康福祉	地区住民の健康増進と健康意識の向上を図ります。 ○ 脳卒中予防ワークショップ ○ 健康講座 ○ 球技大会、体育大会 等 地区社会福祉協議会・福祉社会福祉推進委員会として、地域の社会福祉の増進を図り、住民みんなが協力し合い、明るく楽しく生きがいのある地域を創っていきます。 ○ 敬老会 ○ ひとり暮らしの集い ○ 世代間交流 等
V	青少年育成	・「教育・文化」人づくり、子育てするから「城河原」 城河原の未来を創る子どもたちを地域で支える活動や安心して子育てができるように子育て環境の整備・充実を図っていきます。 ○ 世代間交流の促進 等
VI	環境整備	・「住環境」夢とホテル飛び交う「城河原」 先人から受け継いだ守らなければならない自然環境を守り、この環境がいっしょに継承できるような環境整備をすすめていく必要があります。 ○ EM圃場普及 ○ 河川、河川敷の清掃 ○ 花いっぱい運動、芝桜、つつしの植栽 等 また、定住人口の促進と安心・安全なまちづくりを目指します。 ○ 住居の整備、空き家の活用 ○ 防犯ボランテアィア・ハットロールの充実 ○ 自主防災組織の充実、防災備品等の整備 等
VII	その他	